

第24回能代産業廃棄物処理センター環境保全対策部会 議事録（要旨）

- 1 日 時：令和2年10月14日（水）10：00～12：00
- 2 会 場：秋田地方総合庁舎 6階 605会議室
- 3 出席者：及川部会長、佐藤委員、菅原委員、林委員
- 4 議 事：（1）部会長の選任について
（2）部会長の職務代理者の指名について
（3）No. 2処分場における廃油入りドラム缶の掘削工事について
（4）令和元年度水質等調査結果について
（5）センター周辺滲出水における今後の対応等について

5 議事の概要

	（ 議事（1）（2）後、（3）について事務局が説明 ）
委 員	今回掘削したドラム缶の内容物はこういったものだったか。 また、ドラム缶の破損状況はどうだったか。周辺土壌へ汚染が進んでいなかったか。
県	今後、内容物ごとに仕分けをして成分分析を実施する予定である。 目視では平成29年掘削時と同類の機械オイルや接着材等を確認している。 ドラム缶は潰れたり穴が空いているものも多かったが、大量に油が付着した土壌が出てくるという状況ではなかった。 撤去時に内容物が付着した土壌は、内袋付き土のうに保管しており、適正に処分する。
部会長	十分注意し、適正な処理をお願いします。
県	現在、計画範囲の掘削及び掘削中に発見したドラム缶の撤去は全て終えているが、住民団体からの新たな要望として、西側のコンクリート塊が確認されている箇所の追加掘削を要望されている。
委 員	どのようなコンクリートなのか。
県	いわゆるがれきであり、大きなコンクリートの塊である。 住民団体とは対応を協議中であるが、途中経過として御報告する。

(議事 (4) (5) について事務局が説明)

- 委員 蒲の沢滲出水の1, 4-ジオキサン濃度について、令和元年度は横ばいとなっているが、遮水壁により供給源が遮断されているため、平成30年度までの減少傾向のように、今後再び減少してくるのではないかと。
- 県 令和2年度は現時点で3回測定しており、今のところは確かに濃度が下がってきている。計画期間内での目標達成を確実なものとしていくため、新たに揚水井戸を設置するものである。
- 委員 追加井戸においても、既存井戸と同様に、詰まり等の揚水量低下が生じることが考えられるため、原因を把握したうえで防止策を講じる必要があるのではないかと。掘削とケーシングの間にフィルター材を投入してはどうか。
- 県 追加井戸も既存井戸と同様に玉石をフィルター材として投入する。引き続きこまめな井戸洗浄等のメンテナンスを行い、安定した揚水を実施したいと考えている。
また、井戸の径は既存の200mmより大きい300mmを予定しており、詰まり防止を図っていきたいと考えている。
- 委員 21号揚水井戸は、鉄バクテリアによるスケールが堆積していることから、還元性が高い環境であることが想定され、透水性が小さいことも考えられる。井戸を追加する際には、その場所の土壌の組成や状況をしっかり確認してほしい。
また、掘削の際に鉛直方向のVOCの汚染状況を調査するなど、できる限りデータや知見を得られるような工夫をしてはどうか。
- 県 限られた予算の範囲内ではあるが、施工業者と協議しながら検討したい。
- 委員 井戸の詰まりの他に揚水量が確保できない要因は。
- 県 過去には、水処理施設の容量が今より多くなかったため揚水を抑えたことがあった。現在は、基本的には詰まりが要因と考えている。追加井戸により、計画揚水量どおりの量が汲み上げられると考えている。
- 委員 事業者が設置した遮水壁の外側エリアのVOCが未だに高く、この遮水壁の健全性について県の考えを確認したい。

県	これまでも検討いただいているように、遮水壁内外で水質に差があることから、内側の水位を外側よりも低く保つことで、遮水壁は有効に機能するものと判断している。
委員	揚水井戸Bの設置位置の選定理由はなにか。
県	既存井戸との位置関係を見て、空白地帯に選定している。 また、観測井戸H25B-22-1も近く観察しやすい。
委員	揚水井戸Aの設置位置の選定理由はなにか。
県	詰まりが生じやすい揚水井戸21号の補完や、蒲の沢へのバリア機能を目的として選定している。
委員	H12B-2等の観測井戸の水位が平成26年頃から急に2m程下がっているが理由はなにか。
県	平成25年までは揚水井戸21号のみで付近の揚水を行っていたが、平成26年から揚水井戸24号、25号の揚水を開始したことによる影響と考えている。
委員	H25B-23-1やH12B-2で確認できる、地下水位と1,4-ジオキサン濃度の関係性が、他の井戸では見られない。今回の掘削の影響により新たな傾向が見られれば、より具体的なメカニズムがイメージできると思う。もし標高が高い位置に濃度が高い層があるとする、揚水による浄化だけではなく、注水による洗い出し等他の方法も検討してみたい。
県	他の方法についても情報を集めていくが、まずはこれまで得られている知見の中から判断し、確実に成果をあげている揚水浄化による追加対策を行うことが最善と考えている。
部会長	結論として、追加対策として揚水井戸を新規設置する方針については適当であると判断する。井戸の掘削にあっては、鉛直方向のVOCの汚染状況が調査できるよう工夫して実施されたい。